

ほうせんじ 13 法専寺

宗派は浄土真宗本願寺派、山号は撫松山、本尊は阿弥陀如来です。開基は、戦国時代末期の龍造寺隆信の家臣で、牟田寄の豪族池田主馬（法名釋善教）です。主馬は、豊後・大友勢の襲来の際、敵軍多数を討ち取り、敵軍戸式武部大輔などとの遺骸を、高尾の一本松（現巨勢町道崎）に埋めました。これらの功により、主馬は隆信より「御自筆之御感状」と鏡を押領しましたが、敵味方の菩提を弔うために出家し、法専寺を建立しました。戦国時代のものと思われる「天下一富多山城守」の銘がある鏡が伝わっていますが、現在は残っていません。明治 38 年（1905 年）に落雷で本堂が全焼し、現本堂は明治 43 年（1910 年）に再建されています。



だいじんぐう 15 大神宮

近くの橋を伊勢講橋といいます。伊勢講とは、伊勢の皇大神宮を崇敬する人々で構成された講組組織です。佐賀でも江戸時代にお伊勢参りという言葉が生まれたように、一生に一度は参詣するという通念までできました。そして、伊勢神社参詣を目的とする伊勢講という信仰上の団体が各地にできました。参加者は路銀を積み立て、代表者をたててお伊勢参りに送りました。全員が参拝を終えた時に、その記念に大神宮の碑を建てたものと思われます。伊勢参りや伊勢信仰が盛んだった当時のことがうかがえます。



やなぎはらかんのん 16 柳原観音

柳原観音は、天明 5 年（1785 年）の郷村地図に記載され、古くから近郷から多くの信仰を集めています。古くから近郷から多くの信仰を集めています。裏には大庄屋が住んでいたといわれ、観音の西には郷北には裏門といわれる所があり、大庄屋敷の裏門があつた所ではないかといわれています。



へつぎつか 14 戸次塚

戦国時代、元亀元年（1570 年）4 月に、豊後の大友宗麟は佐賀の龍造寺氏を攻めてきました。大友の武将戸次鑑連との巨勢の戦いは、鍋島昌信（後の直茂）らの奮戦で鑑連の軍は敗走しました。同年の川上・今山の戦いでは、大友方の大友八郎親秀（親貞）は討ち取られ、龍造寺軍の大勝となりました。今山の大友軍は敗走しましたが、神崎郡の柿・境原の軍勢は退却せず、臼杵式部大輔の軍勢は、巨勢・高尾まで攻めました。この戦いも龍造寺軍の勝利になりました。巨勢・高尾の戦いでの戦死者を道崎に葬ったのが戸次塚です。以前、戸次塚は 264 号線の北側にありましたが、焼原川の河川改修により、南側の現在の場所に移されています。



きかいかんがいきねんひ 17 機械灌漑記念碑

水田の灌漑方法としては、以前はどこも踏み車が使用されていましたが苦勞が多かったです。大正 10 年（1921 年）に、この地区に東分耕地整理組合が組織され、佐賀県初の機械灌漑施設が取り入れされました。最初はディーゼルエンジン、その後、石油发动機やガス发动機によるポンプが導入されましたが、いずれも失敗や不便がありました。大正 12 年（1923 年）、牛島の真崎鉄工所の協力もあり、電力揚水ポンプが導入されました。こうした電気機械灌漑は佐賀平野のみならず県内外にも広がり、日本の先駆けとなつたのです。



じぞう 19 地蔵

この地蔵は、天明 5 年（1785 年）の郷村地図に記載され、古くからこの地の人々の信仰を受けていました。地蔵は病気平癪や庶民のいろいろな苦しみを、慈悲をもって救ってくれる苦難として信仰されてきました。とくに子供や幼児を守るといわれ、子育て地蔵ができたり、赤いまだれかけを見かけたりするのもそのためでしょう。この地蔵は両手でしっかりと宝珠を持っておられます。



さしあたりコース (2.6km)

巨勢公民館 → ⑬法専寺 → ⑭戸次塚 → ⑮大神宮 → ⑯柳原観音 → 巨勢公民館

じっくりコース (4.3km)

巨勢公民館 → ⑬法専寺 → ⑭戸次塚 → ⑮大神宮 → ⑯柳原観音 → ⑰機械灌漑記念碑 → ⑱二十三夜尊 → ⑲地蔵 → ⑳修理田神社（熊野権現社）→ 巨勢公民館

たっぷりコース (6.0km)

巨勢公民館 → ㉑安福寺 → ㉒応永寺跡 → ㉓売茶翁記念碑 → ㉔小田資光の墓 → ㉕八幡宮 → ㉖保食神社 → ㉗地蔵 → ㉘機械灌漑記念碑 → ㉙二十三夜尊 → ㉚大神宮 → ㉛戸次塚 → 巨勢公民館

おだすけみつ はか ㉔ 小田資光の墓

応永 34 年（1427 年）小田直光は蓮池の地に下つて来て城を築きました。蓮池城（小曲城）は佐賀江などの自然の要害によって難攻不落といわれました。直光の 4 代孫の資光（覚派）は、龍造寺氏と対立しながら、有力な在地領主として勢力をのばしました。豊後の大友氏の佐賀攻めで、小田氏は大友氏に味方しますが大友氏は敗れ小田氏は龍造寺氏の軍門にくだりました。その後、龍造寺氏の福島寺城攻めで小田政光（資光の孫）は戦死し、その喪中に龍造寺氏により蓮池城は攻め落とされました。当時、隠居していた資光はその落城を見て憤り自害しました。資光の墓は、蓮池の徳恩寺にあります。墓の前には小田氏の業績を讃えた塔が立っています。



しゅりたじんじゃ ㉚ 修理田神社（熊野権現社）

「熊野権現」または「権現さん」ともいわれ、祭神は伊弉諾尊（いざなぎのみこと）、伊弉冉尊（いざなみのみこと）。この神社は、東西・藏福坊の宮司田原磐門の祖先である田原伊勢守尚明が、天正 7 年（1579 年）に千本松という所に熊野権現を勧請したといわれています。この地は、明治の初めまでは千本山・千本松といわれ、多くの松が生い繁り、昼でも暗い所でしたが、明治 20 年（1887 年）に開墾され、現在の姿になり、その記念碑が立っています。また、この地には、玄蕃流の浮立が伝えられています。



あんぶくじ ㉑ 安福寺

宗派は浄土真宗本願寺派、山号は大徳山、本尊は阿弥陀如来です。元々は臨濟宗東福寺派の寺院であり、創立年代は不明で、室町時代の応永年間に鎌倉より下ってきた小田直光が蓮池城（小曲城）を築城した前後に建立したといわれています。しかし、小田氏の滅亡により寺運も衰え、現在は磨寺となっています。入口に戦国時代のものと思われる六地蔵があります。なお、この辺りには応永寺の他にも寺院があったらしく、昔から寺町と呼ばれています。



おうえいじあと ㉒ 応永寺跡

応永寺は、臨濟宗東福寺派の寺院で、本尊は親世音菩薩です。開山は大円和尚で、室町時代の応永年間に鎌倉より下ってきた小田直光が蓮池城（小曲城）を築城した前後に建立したといわれています。しかし、小田氏の滅亡により寺運も衰え、現在は磨寺となっています。入口に戦国時代のものと思われる六地蔵があります。なお、この辺りには応永寺の他にも寺院があったらしく、昔から寺町と呼ばれています。



ばいさおうきねんひ ㉓ 売茶翁記念碑

幼名は柴山菊泉、後に還俗し高遊外と名乗った龍津寺の僧、月海元昭（1675 年～1763 年）は 57 歳の時京都に上り、売茶翁と称し、鴨川支流二の橋に通仙亭を構え、売茶を始めました。風光明媚な所で煎茶を売りながら禅を説き、世の中の出来事などを語って聞かせたので、たちまち人々の評判となりました。身分を区別せず茶代を払おうと払うまいと気にかけず、煎茶をふるまったくといいます。売茶翁は風流を友とする独特の風格があり、池大雅や伊藤若冲、円山応挙、上田秋成、田能村竹田、渡辺崋山、富岡铁斎など江戸時代の多くの文人たちから愛敬され、お茶売り姿の肖像画が数多く描かれました。中でも、伊藤若冲が描く売茶翁は有名です。そして、煎茶が庶民の飲物として日本全国に広がるきっかけとなつたのです。売茶翁は前茶の祖として、今でも多くの人に敬愛されています。



ほしょくじんじゃ ㉔ 保食神社

「保食」を地元では「ましょく」と呼んでいますが、一般的には「うけもち」と読みます。保食神（うけもちのかみ）は、「日本書紀」にも登場する神で、食物の神、五穀の神といわれます。神殿の前に赤い鳥居が建っています。赤い鳥居といえば稻荷神社ですが、その祭神は倉稲魂（うがのみのまのかみ）といい、保食神と同じ性格を持っています。入口に弥陀三尊があり、境内には二つの夜塔、蔵福坊と刻まれた庚申塔、天照皇大神の石碑などがあります。ほかに竹森社、松森社、稻荷社などがあります。隣には、蓮池藩祖鍋島直澄が建てたといわれる臨済宗妙心寺派寺院だった長江寺跡があります。

